

平成21年 6月 10日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2008  
 課題番号：19500552  
 研究課題名（和文） 新しいスポーツ思想の構築に向けて―大島鎌吉資料の基礎的研究―  
 研究課題名（英文） Investigations of Oshima Kenkichi Archives

研究代表者  
 安田 忠典（YASUDA TADANORI）  
 関西大学・文学部・准教授  
 研究者番号：90388413

## 研究成果の概要：

本研究では、日本を代表するオリンピック思想の理解者であり、オリンピック平和運動の国際的なリーダーであった大島鎌吉の遺した資料をデータベース化し、デジタル公開するための基礎的調査を実施した。調査を通して、大島の蔵書（雑誌・薄冊等を除く）約1400点と遺品類約400点についてはデータ入力を終了している。これらのデータは、DCMES(Dublin Core Metadata Elements Set)に従って、データ記述のための要素タイプを選定し、将来のインターネット公開に備えている。オリンピックという人類の財産を今後どのように発展させるかという壮大かつ喫緊の課題に対して、確固たる信念をもって平和運動として推進した大島の思想を明らかにし、参考にしていくことの意義は大きいと考える。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：スポーツ哲学

## 1. 研究開始当初の背景

東京オリンピック日本選手団長であった「スポーツの人」大島鎌吉の業績に関する研究では、これまでに伴義孝『スポーツ思想の誕生―大島鎌吉の周辺―』（創文企画，422頁，1994），中島直矢・伴義孝『ス

ポーツの人 大島鎌吉』（関西大学出版部，335頁，1993）の2冊の研究書が出版されている。しかし、遺された大島資料の精密な整理・調査を実施する以前になされたこれらの研究は、さらなる資料調査の進展を待っている、すなわちさらに継続し精密化さ

れるべきものであった。

すでに申請者は、これらの研究の中心人物であった伴義孝を研究協力者として、学内研究助成金（平成17年度学術研究助成奨励研究「大島鎌吉資料の基礎的研究-データベースのインターネット公開に向けて」）の支援を受け先行研究を継承する基礎研究を開始していた。

## 2. 研究の目的

大島鎌吉(1908-1985)は、東京オリンピック日本選手団長などを務め、わが国のスポーツを世界的水準にまで引き上げることに多大な貢献をした人物として知られている。また、大島は「オリンピック精神の平和運動」「スポーツ・フォー・オール（みんなのスポーツ）普及運動」の当時の世界的なリーダーであった。しかし、それから40余年の歳月が流れた今日、日本のスポーツ界は、勝利至上主義、金権主義、プロ化問題、ドーピング問題など倫理的、哲学的な問題に対してスポーツマンらしいさわやかな回答を提出することができずに迷走している観もまた否めない。

ところがこのような問題に対して大島は、じつに40年以上も前から警鐘を鳴らしつづけていたのである。いまこそスポーツに関わる専門家たちが中心となって大島の思想について研究を進め、21世紀に通用する健全な「スポーツ思想」を創造し、明瞭な方向性を提示しなければならない。そしてその作業は、じつはスポーツのもつ本質的な価値の再認識・再評価であり、さらにそれらを現代の社会的背景と照らし合わせた上でスポーツに対して新たな現代的価値を付与することでもある。

本研究では、わが国を代表するスポーツ思想家である大島鎌吉の遺した資料を綿密に調査することによって大島のスポーツ思想を明らかにし、それを基盤とした21世

紀に望まれる新しいスポーツ思想の創造に向けた資料を整備することをその目的とする。

## 3. 研究の方法

関西大学が保管している大島鎌吉の遺品・資料を整理・調査し、データベースを構築する。とくに大島の書簡、原稿等の一次資料については期間内にその概容を明らかにし、漸次活字化およびデジタルファイル化を進める。また散逸している大島が発信した書簡や原稿などの資料を調査・収集し、データベースに組み入れる。これらの基礎資料については、調査・整理が終了したものから「大島鎌吉デジタルアーカイブ」としてインターネット公開し、外部の研究者との連携を開拓する。具体的な研究方法については以下のとおりである。

(1) 関西大学が所蔵している大島鎌吉資料のうち、未整理である自筆資料についてカード化を進める。

(2) 上記作業にて抽出されたカードの内容をコンピュータに入力し、データベースを構築していく。

(3) 上記の自筆資料については、カード化と同時にスキャナーを用いてデジタルファイル化し、データベースに組み込んでいく。この作業によって、データベースは資料を画像として閲覧することも可能となり、データベース自体をインターネットで公開することによって研究者のアクセスを容易にする。

(4) このほか、写真類等についてもスキャナーを用いてデジタルファイル化し、データベースに組み込んでいく。スキャニングについては情報処理を専門とする研究協力者による支援を受ける。

(5) 主要な自筆資料については、順次

活字化を進めていく。

(6) 海外における大島の資料収集および関連資料調査を行なう。主な調査地はカール・ディームアーカイブを擁するドイツ・ケルンスポーツ大学および大島がドイツのスポーツ政策を日本に紹介する基盤となったドイツスポーツ連盟(DSB)などである。

(7) 国内における大島の資料収集および関連資料調査を行なう。

#### 4. 研究成果

研究期間中の調査を通して、現在関西大学において保管されている大島資料の概要がほぼ明らかになった。それらのうち、大島の蔵書(雑誌・薄冊等を除く)約1400点と遺品類約400点についてはデータ入力を終了し、約1500点の雑誌・薄冊と、今回の調査で確認された膨大な自筆資料や新聞切抜スクラップ帳等がさらに未調査のまま残されている。(調査・整理は現在も継続中である)

これら個々の資料(情報資源)に帰属する書誌情動的なデータをメタデータと呼ぶが、メタデータを記述する方法を統一しておくことで、複数の主体によって記述されたメタデータを相互運用することができるようになる。つまり、インターネット上で相互連関的に複数のデータベースを運用できるなどのメリットが期待できるのである。

近年、このメタデータの記述形式がさまざまな規格制定団体や業界団体で制定されているが、本研究においては、国際標準にも認定(ISO15836)されているDCMES(Dublin Core Metadata Elements Set)に従って、データ記述のための要素タイプを選定し、インターネット公開に備えている。

これらの資料を概観することでいくつかの特徴が明らかになった。まず、大島の蔵所に関しては、やはり体育・スポーツ関連の書

籍が充実しており、和書で約500タイトル、洋書で約200タイトルと、合わせて全タイトルの約半数を占めている。洋書の大半は英語ではなくドイツ語の書物で、毎日新聞記者時代、第二次世界大戦下のベルリンに6年間駐在していたことに始まり、カール・ディームとの交流、スポーツ少年団の普及活動など、大島とドイツとの深い関係をよく反映しているといえよう。

また、大島は研究者ではなく、あくまで実践家であり運動家であったとはいえ、蔵書数のあまりの少なさには意外な感があったが、その一方で、100冊近くの新聞切抜スクラップ帳と、大量のノート類(未整理)が発見された。これらは、新聞記者として言論活動を開始した大島の、際立った特徴といえることができよう。記者時代に培われた、実地に臨み、自身の目や耳を使って集め、あるいは自らの身体を通して感得した事実を基盤にして考察し、発言するという大島のスタイルは、こうした資料にもよく現れていることがわかった。

本研究では、上記の資料調査に加えて、「ハンス・ハインリッヒ・ジーフェルト賞」のトロフィー、カール・ディームのデスマスク、ロサンゼルス・オリンピックの表彰状、米国オリンピック委員会からの書簡、ベルリンオリンピック・マラソン競技優勝者孫基禎選手に送られた古代ギリシアのブロンズヘルメット(レプリカ)等の代表的な遺品類(合計20点)についてはデジタルカメラにて撮影し、画像資料として運用できるようにした。

また、当初調査対象とした関西大学所蔵資料以外にも、存命の関係者(とくに関西圏の体育やレクリエーション関係者)に対するインタビューや、主に陸上関係の貴重資料(大島のブラジル遠征関連資料や写真類、戦前の陸上競技関連雑誌等)の寄贈などによって、

アーカイブスとしての資料収集が進展した。このような関連資料収集についても、引き続き実施している。

こうして収集された資料のうち、とくに大島の言論活動としては最初期といえる戦前の陸上競技雑誌から、署名入り記事・論文を抽出し、デジタル画像化している。これらの記事・論文のうち、選手時代の大島による跳躍理論には目を見張るものがあり、今後の研究材料としてきわめて興味深い発見であった。(抽出・スキャニング作業は現在も継続中である。)

今回の研究によって大島資料の概要が明らかになり、それらを主に画像データとして研究者に提供できる体制がほぼ整った。今後は、これらの資料を活用し、上述の戦前期の雑誌調査など、大島の活動の詳細を追跡する研究が進展することによって、忘れられつつあった日本のスポーツ思想家に再び脚光を浴びせ、スポーツがどうあるべきかという問題を議論していくことができるようになるであろう。

また、収集・整理された資料に基づいて、最新版の大島鎌吉略年譜を作成した。(後掲の大阪体育学会にて発表。)

一方で、諸般の事情により、研究機関中に計画していた「⑤自筆資料のデータ化、活字化」と「⑥ドイツ(ケルンスポーツ大学およびドイツスポーツ連盟(DSB))における資料調査」については、実現することができず、今後の課題として残されることになった。

なお、研究成果の一部は2009年度(2010年3月)発行予定の『大阪体育学研究』第47号に掲載予定である。(安田忠典, 新野守, 伴義孝, 三浦敏弘, 雑古哲夫「大島鎌吉資料の基礎的研究(仮題)」)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計1件)

- ① 新野守, 安田忠典 「大島鎌吉と満州国の第10回極東大会参加問題」身体運動文化論攷(査読有), 第7巻, p.p.177-188, 2009

[学会発表](計2件)

- ① 安田忠典, 新野守, 伴義孝, 三浦敏弘, 雑古哲夫 「大島鎌吉資料の基礎的研究」大阪体育学会第47回大会, 2009年3月22日, 近畿大学

- ② 新野守, 安田忠典 「大島鎌吉と満州国の第10回極東大会参加問題」大阪体育学会第47回大会, 2009年3月22日, 近畿大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

安田 忠典 (YASUDA TADANORI)  
関西大学・文学部・准教授  
研究者番号: 90388413

### (2) 研究分担者

伴 義孝 (BAN YOSHITAKA)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号: 10067647

三浦 敏弘 (MIURA TOSHIHIRO)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号: 70141512

雑古 哲夫 (ZAKO TETSUO)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号: 00247892

### (3) 研究協力者

新野 守 (SHINNO MAMORU)  
関西大学・非常勤講師